



令和5年11月28日

滋賀県初！非弁膜症性心房細動による脳卒中を予防する カテーテル治療-左心耳閉鎖システムWATCHMAN™- を実施致しました 【記者説明会のお知らせ】

滋賀医科大学医学部附属病院 循環器内科の中川義久教授、小澤友哉講師、林篤志助教らは心原性脳梗塞に対する新たな治療法である、経カテーテル左心耳閉鎖術（WATCHMAN：ウォッチマン）を滋賀県内で初めて実施しました。



中川 義久教授

心原性脳梗塞の予防には、抗凝固薬の長期的な服用が推奨されておりますが、抗凝固薬の副作用である消化管や脳からの大出血が問題となります。複数の慢性疾患を抱える高齢者が増加している背景には出血のリスクが高い、あるいはすでに何度か出血を繰り返すために抗凝固薬の服用が困難となっている患者さんが増加していることがあります。今回実施した経カテーテル左心耳閉鎖術はこのような、抗凝固薬の服用ができない、あるいは服用により出血リスクが非常に高くなる患者さんを対象とし、薬を服用した場合と同等の脳梗塞発症リスク低減効果と、抗凝固薬の服用が不要になることに伴う出血リスクの低減が期待できる治療法です。

WATCHMANデバイスを用いた経カテーテル左心耳閉鎖術は、心房細動により血栓が形成される部分（心臓の左心耳と呼ばれる部分で、心原性脳梗塞の90%以上がこの部分に生じた血栓が原因で生じます。）を完全に閉鎖することにより、血栓の形成を予防します。本治療は1回の手技で完了し、カテーテルによる手術のため傷口が小さく、比較的短期間の入院で済むことも特徴です。

滋賀医科大学医学部附属病院では、令和5年11月8日に県内で初めて左心耳閉鎖システム『WATCHMANデバイス』による治療を実施しました。手術を受けた患者さんの術後経過は良好です。

本院での治療開始により、特に滋賀県内の患者さんに対する治療の選択肢が増えることになりました。（本治療への適応や治療方針については十分に議論を行った上で決定いたします。）

今後も患者さんにとってより良い治療をご提供できるよう、努力してまいります。

つきましては、別添のとおり記者説明会をオンライン開催し、詳細について説明を行いますので、ご参加いただけますと幸いです。ご参加いただける場合は、事前に本学総務企画課広報係までご連絡をお願いいたします。

— POINT —

・令和5年11月8日に県内で初めて左心耳閉鎖システム『WATCHMANデバイス』による治療を実施しました。

・経カテーテル左心耳閉鎖術（WATCHMAN：ウォッチマン）は抗凝固薬の服用が難しい患者さんに対し、薬を服用した場合と同等のリスク低減効果が期待でき、治療が難しかった患者さん、特に滋賀県内在住の患者さんに対する新たな治療選択肢となります。

・本治療は1回の手術で血栓形成リスクを低減させることができ、入院期間も比較的短く済みます。

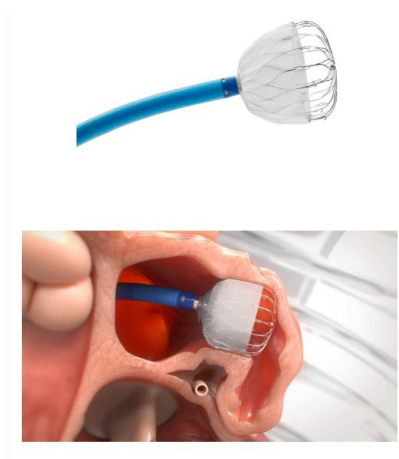
記者説明会開催日時等

- ◆日時：令和5年12月7日（木）16：00～
- ◆会場：WEB開催（Zoomを使用）
（本学広報係:hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jpに事前連絡いただくことで招待URLをお送りいたします。申込期限：2023年12月4日(月)17時まで）

【発表者】

滋賀医科大学 循環器内科
教授 中川 義久（なかがわ よしひさ）
講師 小澤 友哉（おざわ ともや）
助教 林 篤志（はやし あつし）
助教 藤居 祐介（ふじい ゆうすけ）
特任助教 浅田 紘平（あさだ こうへい）

〔イメージ写真〕 写真提供：ポストンサイエンティフィックジャパン株式会社



《研究内容の詳細に関するお問い合わせ先》

滋賀医科大学 循環器内科
小澤 友哉、林 篤志
TEL：077-548-2213
e-mail：hqmed1@belle.shiga-med.ac.jp

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 総務企画課 広報係
TEL：077-548-2012（担当：岩品）
e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp